

リケジョのパイオニア 丹下 ウメ

理系女性研究者のパイオニアといわれる科学者・丹下ウメ（1873～1955年）は鹿児島で生まれた。市電の走る鹿児島市繁華街天文館通りに近いデパート入口脇にある女性の胸像がその人である（写真1）。1876（明治9）年、天文館をご神幸行列が練り歩く祇園祭の山車の笛や太鼓の音が聞こえた時、晴れ着を着た3歳のウメは廊下を走り滑って転んだ。不幸にも手に持っていたままごとの竹バシが右眼に刺さり失明する¹⁾。鹿児島県立女子師範学校を卒業後、女子師範附属尋常小学校の教職に就いていたが、1901（明治34）年、28歳のウメは日本女子大学校（現在の日本女子大学）の自然科学専攻の家政科に入学した。

卒業後、東京帝国大学の教授でもあり、日本薬学の父とも呼ばれた長井長義（1845～1929年）の化学教室助手となり、教授の授業の実験助手も務めた。長井に勧められ1911（明治44）年、文部省中等教員化学科検定試験を受験し女性として初めて合格した²⁾。家政科を出て化学の検定に合格したことは当時珍しかったばかりでなく、女性もこうした方面に伸びる素質があることを、世間に認めさせる結果にもなった。

1886（明治19）年に公布された帝国大学令では、入学資格は高等学校卒業生のみ限定しており、当時の高等学校は男子のみであった。

1913（大正2）年、東北帝国大学（現在の東北大学）では規則を変更し、高等師範学校と高等工業大学の卒業生、又は中等教員検定試験合格者を受験資格とし、入学対象者を男性に限定していなかったためウメは受験した。この時、女子高等師範学校を卒業した黒田チカ（化学科）、牧田らく（数学科）と共に合格した3人の女性の中で、41歳のウメは最年長であった。官報で合格発表が行われた8月21日が後に女子大生の日となった。

1918（大正7）年、卒業後大学院に進学して有機化学と生物化学を専攻したウメは48歳の時に渡米し、スタンフォード大学に入学している。コロンビア大学を経て、ジョーンズ・ホプキンス大で「ステロール類のアロファン酸エステル合成と性質」の学位論文により理学博士の学位を授与された時、ウメは54歳であった。

1929（昭和4）年に帰国したウメは、母校の日本女子大学生物化学教授に迎えられると共に、理化学研究



写真1 丹下ウメ博士の胸像
（鹿児島市金生町）



写真2 丹下ウメ（梅子）顕彰碑（埼玉県新座市平林寺）

所の嘱託として鈴木梅太郎（1874～1943年）のもとでビタミンの研究を行った。1940（昭和15）年に「ビタミンB₂複合体の研究」により東京帝国大学から農学博士の学位を受けた時、ウメは67歳であり理系で活躍する女性の元祖・パイオニアと呼ばれる所以である³⁾。

ウメ等が日本初の女子大学生となり“女子大生の日”とされて109年経った2022年8月21日に、埼玉県新座市の平林寺に顕彰碑が建立され除幕式が行われた。顕彰碑は、日本女子大学と東北大学、理化学研究所、平林寺と丹下氏の親戚の寄進で作られた（写真2）⁴⁾。

厳しい冬の寒さの中にあっても、梅の花は凛々しくほころぶ¹⁾。“ウメ”というその名のように、厳しい寒さや風の季節の中にあっても、爽やかな香気を放って静かに咲いた女性科学者は1955（昭和30）年1月29日81歳で没した。

参考資料

- 1) かこさとし、科学者の目、33-36（2019）
- 2) 鈴木裕子監修、先駆者たちの肖像 明日を拓いた女性たち、64-65（1994）
- 3) 理化学研究所百年史 第1編 歴史と精神 第2部 それぞれの100年 第5章 女性科学者の100年 (<https://www.jwu.ac.jp/univ/about/history/ct6r0e0000006y9y-att/riken100-1-2-5.pdf>)
- 4) 理化学研究所 理研チャンネル、女性科学者のパイオニアたち 6道もなき道ふみ分けて 丹下ウメ：<https://www.youtube.com/watch?v=kTxSKak3iw>

（日本診療放射線技師会 諸澄邦彦）